

## IV 令和2年度普通会計の決算状況

普通会計とは、地方公共団体の財政状況の把握や財政比較等のため、統計上統一的に用いられる会計単位で、公営事業会計以外の会計を一つの会計としてまとめたものです。

算出にあたっては、一般会計と公営事業会計に属さない特別会計を合算しますが、単純に合計するだけでは会計間の重複(相互間または他会計とのやりとり)により財政規模が実際より大きくなるため、この重複部分を控除して正味の決算額(純計決算額)に調整しています。

本市では、一般会計及び公共用地造成事業会計を普通会計として、上記の調整を行い、純計決算額を算出しています。

### 1 普通会計決算規模及び決算収支

令和2年度の普通会計決算額は、歳入875億94万8千円、歳出852億7501万9千円となり、前年度に比べ、歳入194億8749万7千円(伸率+28.7%)、歳出192億2980万8千円(伸率+29.1%)がそれぞれ増加しました。

この結果、歳入歳出差引額(形式収支)は、22億2592万9千円で、この形式収支から翌年度へ繰り越すべき財源6億8032万3千円を控除した実質収支は、15億4560万6千円となりました。

これは、地方公共団体の一般財源の標準規模を示す標準財政規模(令和2年度:366億9085万3千円)の4.2%であり、適正範囲内(3~5%程度が望ましいとされている)に収まっています。

なお、実質収支(剰余金)は、その1/2以上を財政調整基金に積み立てるなど次年度以降の財源調整に活用しています。

第9表 普通会計決算収支の状況

(単位:千円)

区 分	令和2年度 a	令和元年度 b	比 較	
			a-b	a/b×100
歳 入 総 額 A	87,500,948	68,013,451	19,487,497	128.7%
歳 出 総 額 B	85,275,019	66,045,211	19,229,808	129.1%
歳入歳出差引額 (A-B) C	2,225,929	1,968,240	257,689	113.1%
翌年度へ繰り越すべき財源 D	680,323	702,440	△22,117	96.9%
実 質 収 支 (C-D) E	1,545,606	1,265,800	279,806	122.1%
単年度収支 (E-前年度E) F	279,806	130,481	149,325	-
財政調整基金積立金 G	969,819	572,613	397,206	169.4%
〃 取崩額 H	1,469,960	699,059	770,901	210.3%
市債繰上償還金 I	7,403		7,403	皆増
実質単年度収支 (F+G-H+I) J	△ 212,932	4,035	△ 216,967	-